

学園町遺跡

ニサンザイ古墳

発掘調査地

2004年3月

大阪府教育委員会

はじめに

大阪府立大学は百舌鳥古墳群の東端にあたる堺市学園町に所在し、すぐ西には百舌鳥古墳群中3番目の大きさを誇るニサンザイ古墳があります。過去にも數度試掘調査を行い、中世の遺物が出土したため、発掘調査を行った地点もあります。今回も工学部新学舎を建築するということで、平成15年5月に幅1.5m、延長100mのトレンチを設定し、試掘調査を行いました。試掘調査の結果、部分的に鎌倉時代以降の遺物が出土したため、100平方メートルの範囲に限って発掘調査をいたしました。中世の遺物は出土しましたが、明確な遺構はありませんでした。近世の遺構は水田の耕作痕跡である鋤跡と古錢を埋納した小ビットを検出しました。鎌倉時代以降人間に利用されたことは明らかになりましたが、巨大な古墳に隣接した場所であるにもかかわらず、古墳時代の人間の生活や痕跡は認められませんでした。今後さらに調査を進めていくことにより、空白の時代を明らかにしていくことが可能となる時が来ることを願っています。今回の調査に当たり、大阪府立大学および関係者の方々には多大なご協力をいただき感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護に対するご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。

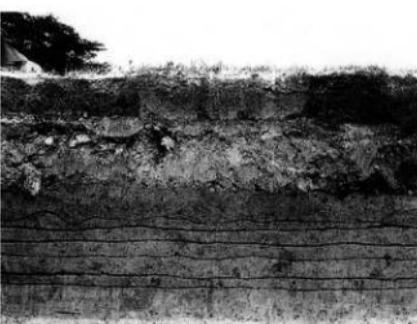
大阪府教育委員会
文化財保護課長 向井正博



府立大学白鷺門

例 言

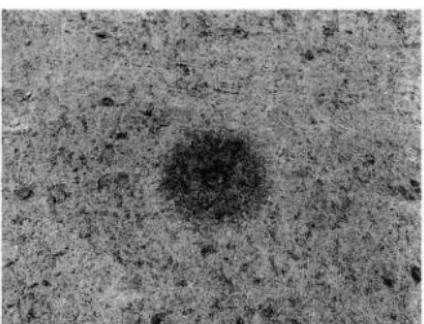
1. 本書は、大阪府立大学工学部新学舎建設工事に伴う、堺市学園町所在学園町遺跡における発掘調査報告書である。
2. 調査は、大阪府生活文化部大学改革課の依頼を受けて、大阪府教育委員会文化財保護課が行った。
3. 調査に要した経費は生活文化部が負担した。
4. 発掘調査は文化財保護課主査藤澤真依、遺物等整理は調査管理グループ技師林日佐子、小浜成が担当し、平成15年7月から平成16年3月まで行った。
5. 本書で使用した座標は国土座標第VI系(世界測地系)、方位は座標北、標高はT.P.(東京湾平均海面)である。
6. 調査の実施にあたって基準点測量を(株)シーニュム・シー、遺物写真撮影を(有)阿南写真工房に委託した。
7. 本書の執筆・編集は藤沢が行った。
8. この報告書は300部作成し、一部あたりの単価は158円である。



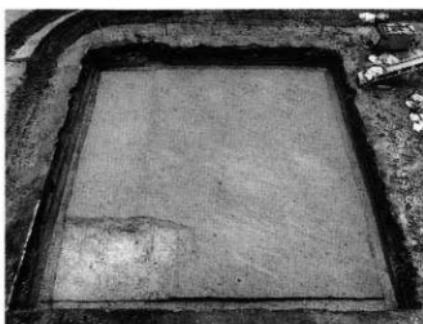
標準土層断面

発掘調査地

第1面ヒット2（東北から）



第1面全景（東北から）



第1面ヒット2埋土（東北から）



第2面全景（東北から）



第3面ヒット3（東北から）



第3面全景（東北から）



出土遺物（表）



出土遺物（裏）

調査

建設予定地は現在グランドであり、北西から東南方向に長い長方形である。試掘トレンチは北の角から東北長辺に沿って50mそこで南北方向に屈曲しグランドを横断するように30mのL字形に設定した。試掘トレンチのコーナー部内側に10m×10mの調査地を設定し、重機にて掘削を開始したが、実際には試掘トレンチの1m外側まで拡張したため、11m×11mの方形にした。東西南北各コーナーの座標値はX=-161159.30, Y=-45502.50, X=-161158.70, Y=-45518.50, X=-61166.95, Y=-45510.65, X=-161151.35, Y=-45510.00である。

第1層は茶色砂で層厚は0.2m、第2層は緑灰色土で層厚は0.05~0.1m、第3層は茶色・黄色ブロック粘土で層厚は0.25mである。これらは大学開設後にグランド整備を目的に盛土されたもので、第1層はグランド整備用、第2層はグランド整地用、第3層はグランド造成用と考えられる。

第4層は灰黒色土で層厚は0.1~0.15m、第5層は0.02~0.05mである。第4層はグランド造成以前の水田耕作土であり、第5層はより古い耕作土の残りである。ここまでを重機により掘削した。第5層下面では遺構を検出しなかった。

ここからは人力により掘削を開始したのであるが、まず、周辺に幅0.3m・深さ0.3mの側溝を掘削した。側溝の掘削では第6~9層を掘削した。第6・7層は全面で確認したが、第8層は東北側でのみ確認した。

第6層は灰色土混じり黄色土で、層厚は0.05~0.07mである。第6層下面を第1面として調査し、南北方向(N20°W)の鋸跡とピット01~03を検出した。第1面の標高はT.P.+ピット1は直径0.12mの円形で、深さは0.10mである。断面形状は半円形である。検出状況は白色粘土を中心に灰色土が全面をくるみ、さらに黄色粘土混じり灰色土がくるんだ3層の玉を半蔵したようであり、断面も同様であった。ピット2は直径0.145mの円形で、深さは0.09m、ピット3もほぼ同寸法で、両者は表面中心部に古銅鏡が一枚あった。銅鏡の種類は鏡がひどく不明である。泉州地域の近世の水田でよく確認されており、水田造成時の地鎮に関係するものと考えられている。すべて同心円状に堆積した土の中央部に浮いた状態で検出していることから、堀込んだのではなく銅鏡により粘土が変色しているだけの可能性も考えられる。

第7層は中世の耕作土で灰色土が0.15~0.2mで、上半部は後世に地表化したようで黄色に変色している。第7層下面を第2面として調査した。調査区の西南約2/3は第9層があるが、東北部は第8層である。遺構は東北から南北方向(N68°E)の轍跡を検出した。轍の幅は0.04m、深さは0.05から0.07m、断面の形状は少し先の尖ったU字形である。轍は第8層の上面でも検出した。

第8層は灰色土混じりの黄色粘土で、調査区の東北部の窪み部分にのみあり、層厚は0.03~0.07mである。土の混じり方から人為的な整地土と考えられる。第8層下面を第3面として調査したが、遺構はなく、轍も検出しなかった。第9層は人為的な痕跡のない自然堆積層で、白色粘土である。部分的に黄色く変色しており、地表化した後に部分的に削平されている。

おわりに

ふりがな	がくえんちゅういせき
實名	学園町遺跡
簡書名	
番次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2003-6
編者名	斎藤真依
発行機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前二丁目 TEL(06)(6941)0351
発行年月日	2004年3月31日

ふりがな 所蔵施設名 所在地	コード 市町村 遺跡	北緯 東経			調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		北緯	東経	測量方法			
がくえんちゅういせき 学園町遺跡	おおさかみやかわい 大阪府堺市	27201	33°32'35" 135°30'25"	!	2003年7月 2004年3月	100	府立大学工学 基礎学舎建設
がくえんちゅう 学園町							

所蔵施設名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
学園町遺跡	水田	鎌倉・室町時代 近世	水田 水田	瓦器 乗台	

大阪府埋蔵文化財調査報告 2003-6
学園町遺跡
発行年月日 2004年3月31日
編集・発行 大阪府教育委員会
〒 540-8571
大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06-(6941)-0351 (代)
印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所